

未来への教訓

復興！ 大津波の記憶を風化させない

平成28年(2016年)
～地元報道より～

1月の出来事

南三陸町

◇南三陸町河川の27年のサケ捕獲数が対前年比57%にとどまり、昨年の4割減少となった。採卵は107万粒と目標の1割にも届かなかった。他の河川からの移入で辛うじて目標を達成した。捕獲の減少の中で沿岸の網揚げを巡り、在り方についても検討に発展した。

◇南三陸町の地方創生戦略策定にあたり、25日に住民説明会が開催される。人口減少対策が示される。素案には出生率を現在の1.07から1.40以上に引き上げ、母親などへの「子育てクーポン券」の配布など具体的な施策を盛り込んでいる。

◇志津川高校の佐々木宏明教諭が、県教委の本年度公立学校優秀職員表彰を受賞した。教諭は22年度から町の活性化を目標に「南三陸モアイ化計画」を生徒たちと共に、モアイキャラクターを商品化するなど、全国に町をPRした。

◇南三陸町の昨年10月から始まったバイオマス事業の生ごみ収集が目標の4割にとどまっている。開始から2ヵ月で回収した生ごみは約27tと、可燃ごみ全体の割合を40%と推計しているが11.3%だった。生ごみ分別の品目が細かく手間が掛かる事が要因と思われる。町ではPRし、町民への協力をもう少しと話している。

◇南三陸町の防災対策庁舎の県有化にあたり、劣化調査が始まる。現地調査の一級建築士は、震災から5年近くが経ち劣化が進んでいると話す。年度内に保存方法を決定する。

◇7日福岡県の高校2年生280人が研修旅行で南三陸町を訪れた。志津川高校の生徒16名が参加し、10人グループに1人が付き、震災復旧状況や現状について、体験談や歩みを聞き取った。福岡県の高校生は5年が経ちもう終わっているかと思っていたと話し、復興は進んでいないと同世代の大変さを痛感していた。

◇8日に南三陸町中山漁港周辺500mの搜索が、南三陸署の8人により行なわれた。南三陸町の不明者は212人で、その内42人が歌津地区民となっている。

◇南三陸町では震災の津波浸水域などを示した「防災ハザードマップ」を作成し、全戸に配布する。志津川・歌津の両町の合併後、初めての作成となる。

◇南三陸町の成人式が10日開催され、対象者203人のうち172人が参加した。

◇南三陸町消防団と交通指導隊の出発式が、団員・関係者530人が集まり開催された。席上山内団長は消防精神で安全な町をつくってほしいと述べた。

◇南三陸町・気仙沼市の食品衛生のお墨付と認

南三陸町と気仙沼市の復興の進捗と問題を比較して見れます。

気仙沼市

◆気仙沼市内の老人ホーム「リンデンバウムの杜」で、県内初のインドネシアから2人の外国人研修生を受け入れる。介護現場の人材不足解消に期待されている。

◆気仙沼魚市場は7年ぶりに東北一となった。水揚げ金額は200億円を突破し、青森県八戸を抜いた。全国32港の27主要港でのランクも上昇し6位となった。

◆気仙沼市は昨年1年間の人口動向を発表し、出生数が過去最低の「326人」となった。人口は66,767人で昨年より924人が減少した。世帯数は26,236世帯となり、復興事業単身者で世帯数が増加している。

◆気仙沼魚市場の起工式が行われた。施設は閉鎖型荷さばき場や低温売り場を供えた「高度衛生管理型魚市場」とする。総事業費は190億円

定となる「推奨の店」が28店となった。南三陸町では、高貞商店・南三陸ホテル観洋・ニュー泊崎荘の3店だった。

南三陸町の国勢調査が発表された。南三陸町は人口が3割減少。人口は1万2375人で4037世帯となった。前回22年の調査から3割減少となり、5054人(20%)・1258世帯(23.7%)が減った。

県内の人口順位は24位から26位となった。減少の要因は仕事や住居を求めて、内陸部や他県に移転したことが上げられる。

◇南三陸町歌津「福幸商店街」が商業施設完成まで、再び2月7日に8店が隣接の仮設に移転し再オープンをする。今後は来年3月頃を目標に伊里前は新しく整備される商店街で入居20店舗で再生を計画している。

◇南三陸町・気仙沼市の火災は、27年は広域消防本部発足の昭和47年以来過去最少を記録した。26年と比べ「ごみ焼き」「放火(疑い)」「火遊び」が減少したため。

◇入谷小学校仮設が8月解体へ。説明会で理解を求め集約化される。18戸だったが、入居者は現在入居率30%を割った。7月までに入谷中仮設に引っ越ししてもらう。

◇南三陸町の現在の仮設は、町内外で48カ所に計2154戸あり、先月末時点での入居は、1430戸となり入居率は66.4%となった。町は新年度30%を下回る見込みの計17団地の集約を進める。

◇南三陸町・気仙沼市の水稲作付面積は27年から減少した。気仙沼は約519ha・南三陸は約144haの合計663haとなり、平成22年の震災前の1014haから65%に減った。農地復旧が進むものの、背景には遊休地や転作などによる。

「入谷 Yes 工房」で作られているオクトパス君が、「合格祈願」の贈り物にと受験前の今、制作がピークとなっている。1番人気の「ゆめ多幸鎮オクトパス君」は累計8万個を売り上げ、大半がこの時期に集中している。

◇南三陸町は水産加工業の人材不足の対策として、従業員家賃の2分の1補助を水産加工工場へ実施する。1人当たり3万円を限度に、1社当たり180万円の限度額で、本年度は5社を予定している。労働力の人材確保の呼び水になればと期待している。

◇歌津の寄木地区に250年前から伝わる「ささよ」が、小正月の15日に大漁や早期復興の願いを込め、再建した家など38軒を訪問し、元気な歌声が地区に響いた。

◇南三陸病院は開業1ヵ月となるが、入院患者は病床の半分にとどまっている。人口減少の中で毎年1億円を超える赤字が見込まれている。その他に人手不足と採算性が課題となっている。

◇南三陸産のカキ「宮城カキの家」が、県が進める東京都内で運営をはじめ、県産殻付カキをPRしている。

◇17日南三陸町フットサル大会が、10チームが参加し開催された。

とし、早期完成を目指す。

◆気仙沼市小泉のトマト栽培施設「サンフレッシュ小泉農園」は、開始から2ヵ月が経ち、1日に1～4トンを出荷している。30人の雇用を生み、11月の実績は40トン約1千万円となった。県内最大級のトマト生産工場として「商品登録」をして出荷している。

◆気仙沼市の国政調査によると、人口は6万4,917人で2万4,139世帯となり、前回比で人口は8,572人(11.6%)世帯数は1,318世帯(5.1%)減少した。

◆気仙沼市図書館の再建計画が決まった。当初は現在の1.5倍の大きさの3000㎡から、コストを考え300㎡を減らした。蔵書は1.7倍として、カフェコーナーなどのスペースを拡大する。児童センターも併設される。

◆本吉町内の馬籠小・小泉中も統合へ。住民からの不安の声も上がっている。

◆18・19日の沿岸低気圧で、少なくとも漁船10隻が転覆や水没の被害が発生した。

結果①フレンドファミリー②黄昏流星群

南三陸病院での透析が18日から治療を始めた。この日は4人の患者が来院し、月・水・金に治療する。内科医2人と看護師3人の体制で対応する。病床は20床で現在は13人の患者数となっている。これまで登米市南方のサンクリニックへ片道1時間の通院だったが、町での透析に「近くで助かる」と患者の喜びの声がある。今後は町民の帰還も見込まれ増加すると予想される。

◇南三陸町の志津川市街地の区画整理内に第1号としてコンビニ店舗が22日に開店する。

◇27年度の志津川魚市場の実績報告での沿岸サケ漁は約4トン、金額は約5億2030万円となり、前年比は数量で54.4%と金額で62.3%と、今後に不定を残す。

◇南三陸町は県事業の計11事業の40億円を申請した。志津川東・中央・西の高台3団地の防集事業など20億円などで、大規模事業が終了となる。

◇南三陸町は住宅再建相談会を25・26日に開催する。

◇歌津総合支所の造成整備が終了し、来年4月の供用を目指す。

◇南三陸町の人工海水浴場「サンオーレ袖浜」の復旧工事を新年度から開始する。県は地元からの再建要望を受け決定し、来年夏の再建を目指す。

◇南三陸町では防災集団移転地の空区画の46を再募集する。

◇南三陸町の国民健康保険の加入被災者の窓口負担を免除していたが、国の財政支援が本年度で終了する事により今年度で打ち切る。気仙沼市は来年度も継続を表明している。27年の町内の3月から11月までの対象者547人に約4900万円を町が負担している。

◇森林の国際認証「SFC」の取得にあたり、国内で南三陸杉の魅力伝えるツアーが開催され、東京・京都など行政・企業から11人が参加した。新国立競技場に採用が見込まれる。

◇南三陸町へ台湾から初めての修学旅行の高校生71人が宿泊。

南三陸町の総合戦略の説明会が行われ、住民の意見を聞いた。町は人口減少対策として定住の充実を図って行く。人口の推計では、現在の14000人から、15年後には10900人、25年後は9400人、45年は7200人を想定している。

◇南三陸町戸倉地区に海の自然体験が楽しめる「ビジッターセンター」が10月の供用開始を目指す。今後は国と石巻で運営協力し、海の環境の拠点として整備される。

◇18・19日の低気圧による南三陸町のワカメ被害は4億円以上に膨らんだ。2月2日の初入れでのワカメ集荷は昨年の3割程度と見込まれる。

◆気仙沼市は28年度も一部地区で、固定資産税と都市計画税の減免を継続する。減収分の1億円は国が補助する。

◆気仙沼市本吉町泉沢に県内最大級の太陽光発電の建設を都内企業が市有地98haに整備する。年間発電量は約5万6千MWで、約1万6千世帯の年間使用料に相当する。

◆気仙沼市「つばき会」が、JTB交流文化賞を受賞した。代表的なイベントの「出船送り」の活動が、地域発信活動として評価された。

◆気仙沼市本吉町の津谷小6年生の芳賀慎之介くんが、30倍の楽天シニアの狭き門に合格した。将来はプロ野球選手を目指し、地元が元気になってもらいたいと話す。

◆気仙沼市本吉町小泉の山内義夫さん(88)は、瑞宝双光章(高齢者叙勲)を受賞した。長年学校教育振興の功績が認められた。最後の3年間は新城小の校長を務め、青少年健全育成と地域の活性化、国際交流を推進した。